

令和8年度 計画変更

土地改良事業計画書

県営農地環境整備事業

地 区 名：南アルプス西部地区

所 在 地：山梨県南アルプス市中野地内ほか

事業主体：山 梨 県

目次

第1章 目的	1
第2章 地域及び地積	1
第1節 地 域	1
第2節 地 積	2
第3章 現 況	3
第1節 気象及び海象	3
1. 一般気象	3
2. 特殊気象	4
3. 海 象	4
第2節 土 地 状 況	5
1. 地形、土壌及び侵食の程度	5
2. 土地分類	6
3. 土地利用の状況	7
4. 土地所有の状況	8
第3節 水 利 状 況	9
1. 用水状況	9
2. 排水状況	9
3. 河川状況	10
第4節 道路現況	11
1. 道路概況	11
2. 主要道路一覧表	11
第5節 地域農業の概況	12
1. 産業別就業人口	12
2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況 並びに専兼業別農家数	12

3. 動力農機具及び主要家畜頭数	13
4. 主要作物作付状況	13
5. 農業の動向	14
第6節 地域環境の概況	15
第4章 一 般 計 画	15
第1節 事業計画の要旨	15
1. 要 旨	16
2. 事業別面積	16
第2節 営農計画及び土地利用計画	17
1. 営農計画の概要	17
2. 土地利用区分	18
3. 作付方式	19
4. 生産計画	20
5. 労働改善計画	21
6. 級地別土地利用区分	21
7. 土地配分計画	21
第3節 用 水 計 画	21
第4節 排 水 計 画	21
1. 計画基準雨量	21
2. 計画排水方式	21
3. 計画排水系統	22
4. 計画排水量	22
5. 排水対策	23
6. 湛水検討	23
第5節 道 路 計 画	24

第6節 農用地造成計画	25
第7節 洪水調整計画	25
第8節 干拓計画	25
第9節 農用地整備計画	26
1. 区画整理	26
2. 暗渠排水	27
3. 客土	27
4. 農地保全	27
第10節 老朽ため池改修計画	27
第5章 主要工事計画	28
第1節 用水施設	28
第2節 排水施設	28
第3節 道路及び索道	30
1. 道路	30
2. 索道	31
第4節 農用地造成	31
第5節 洪水調節施設	31
第6節 干拓施設	31
第7節 農用地整備施設	32
1. 区画整理	32
2. 暗渠排水	33
3. 客土	33
4. 除礫	33
5. 農地保全	33
第8節 老朽ため池改修施設	33

第6章 付帯工事計画	34
第7章 工事の着手及び完了の予定時期	34
第8章 環境との調和への配慮	34
第9章 換地計画の概要	34
第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方	34
第2節 換地区の設定	35
1. 換地区の名称、所在、面積	35
2. 換地区を設定する理由	35
第3節 換地計画樹立の基本方針	35
1. 従前の土地の面積の基準	35
2. 用途別予定地積	36
3. 農用地集団化の方針	37
4. 非農用地の換地方法	37
第4節 土地の評価及び清算の方法	37
1. 評価の方法	37
2. 清算の方法	37
第5節 換地計画樹立の年度計画	38
第6節 換地処分の特則	38
第10章 事業費の総額及び内訳	39
第11章 効用	40
第12章 関連する事業	41
第13章 現況・計画平面図	41

第1章 目 的

南アルプス西部地区は、3,000m級の山々に囲まれ特徴的な果樹園・棚田を有し、「競争力と持続力を持つ交流6次化モデル構想」構築特区において里山エリアとして位置づけられている。この豊かな自然と地域資源を有効に活用しスモモの生産量が日本一※となっており、年間出荷量は2千トン※を超える。生産品種は「貴陽」、「ソルダム」、「サマーエンジェル」、「サマービュート」など13種類に及び、特に南アルプス市のオリジナル品種である貴陽は1個平均200グラムもある大玉種で、2012年7月には「重さが世界一のスモモ」としてギネス世界記録に認定されている。

本地区内では果樹の栽培が盛んであり、多くの篤農家が「果樹王国やまなし」の一翼を担っている。また、本地区の中央に位置する「ほたるみ館」、「まちの駅くしがた」には農産物直売施設があり、新鮮な農産物を求める地域住民・都市住民に対して、これらを活用した少量多品目販売を目指した流通体制が確立しつつある。特に、ほたるみ館では地元農産物の加工・販売を行い、新商品の開発も積極的に行い商品化に向けて努力している。

本地区の農地は山際の果樹園、美しい棚田をはじめとする優良な農地であったが、鳥獣害被害や農作物の価格高騰の影響、また営農従事者の高齢化や担い手不足により耕作放棄地として荒廃の一途をたどっており、現況の耕作地もその影響を受け営農に困難をきたしている。そのため、これらの現状を解消し、元来の優良農地を復活させ担い手が育つ高収益な農業を実現するため、区画整理による担い手への農地の利用集積と、農業用排水路整備、道路整備、鳥獣侵入防止施設整備により計画的・安定的な農業生産を行なうための整備が急務である。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事 業 名	地 域
農地環境整備事業	山梨県南アルプス市中野地内ほか

第2節 地 積

(令和7年2月現在) (第2表)

事業名	現況地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	樹園地 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)
県営農地環境整備事業	南アルプス市	41.1	24.6	76.5	0.0	0.0	3.0	145.2
計		41.1	24.6	76.5	0.0	0.0	3.0	145.2

※1 () 面積は重複受益である。

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表－1)

観測所名	甲府地方気象台	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	1971年～2000年	5月～9月	10月～4月		
平均気温(1971年～2000年)		22.6 ℃	8.3 ℃	13.7 ℃	
降水量	平 均	678.2 mm	431.4 mm	1,093.0 mm	
	基準年(2001年)	622.7 mm	453.3 mm	860.0 mm	
降水日数	平 均	56.8 日	48.0 日	132.0 日	
	基準年(2001年)	54.0 日	53.0 日	108.0 日	
根雪期間		なし			
無霜期間		207日間(4月22日～10月30日)			
最多風向			最大風速 (風 向)	m/s	最多風向発生時期 最大風速発生年月日

2. 特殊気象

(第3表－2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
甲府地方気象台															
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率
最大日雨量 (mm)	244.5	1945.10.5	1/100	220.5	2002.7.10		223.3	1948.9.16	1/40	222.5	1910.8.10	1/40	213.8	1947.9.15	1/33
最大時間雨量 (mm)	78.0	2004.8.7		73.0	1978.7.8	1/52	61.0	1990.9.20		59.5	2003.8.5		50.8	1956.7.21	1/23
最大連続雨量 (mm)	498.0	1945.10.2～10.11	1/87	451.5	1910.8.2～8.10	1/50	419.5	1935.9.20～9.26	1/37	394.2	1896.9.6～9.11	1/28	390.5	1938.6.27～7.8	1/27
最大連続旱天日数 (日)	71.0	1973.11.1～1.20	1/500	35.0	1976.1.1～2.4	1/27	29.0	1945.1.3～1.30	1/12	28.0	1968.1.14～2.10	1/10	26.0	1984.5.18～6.12	1/31

3. 海 象

該当なしにつき省略

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び侵食の程度

(1) 地 形

本地区は、旧中巨摩郡の西部に位置し、釜無川右岸に広がる御勅使川の扇状地と、その上流部の南アルプス山系からなる南アルプス市の農村地帯である。

(第4表－1－1)

事業名	地 目 傾 斜 区 分	田						畑・その他								受益地標高 (m)		備考
		1/1000 以下	1/1000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 ～ 以上	計	3° 以下	3° ～ 8°	8° ～15°			15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
										8° ～ 10°	10° ～ 15°	8° ～ 15°						
農業用排水	面 積 (ha)	28	—	—	—	—	—	12	—	—	—	—	—	—	39	699	641	
	比 率 (%)	100	—	—	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	100	—	—	
農道	面 積 (ha)	14	—	—	—	—	—	12	—	—	—	—	—	—	26	—	—	
	比 率 (%)	100	—	—	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	100	—	—	
区画整理	面 積 (ha)	—	—	—	—	—	—	18	—	—	—	—	—	—	18	—	—	
	比 率 (%)	—	—	—	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	100	—	—	
鳥獣害防止柵	面 積 (ha)	—	—	—	—	—	—	61	—	—	—	—	—	—	61	—	—	
	比 率 (%)	—	—	—	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	100	—	—	
計	面 積 (ha)	42	—	—	—	—	—	103	—	—	—	—	—	—	145	—	—	
	比 率 (%)	100	—	—	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	100	—	—	

(2) 土 壤

(第4表－1－2)

項目 土壌統（区）名	土 壤 統（区） 区 分 一 覧 表										面 積 (ha)				備 考	
	土 壤 断 面								堆積様式	母 材	事 業 名					
	色	植 腐 層	礫 物	酸化沈殿	土 性			炭層 泥層 及び グライ層			農地環境整備事業		計			
					表土	下層土										
					一層	二層	三層									
平岡統	黄褐色	無	無	無	粘性	粘性	一		無	洪積	火成岩	145.1			145.1	水田・畑・樹園地
計												145.1			145.1	

(3) 侵食の程度

該当なしにつき省略

2. 土地分類

該当なしにつき省略

３．土地利用の状況

(令和 7 年 2 月現在) (第 4 表－ 3)

事業名	現況地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	樹園地 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)
県営農地環境整備事業	南アルプス市	41.1	24.6	76.5	0.0	0.0	3.0	145.2
計		41.1	24.6	76.5	0.0	0.0	3.0	145.2

※ 1 () 面積は重複受益である。

4. 土地所有の状況

(令和7年2月現在) (第4表－4)

事業名	所有別 区分	個 人 有			土地改良区有	市町村有	県 有	国 有	計	備 考
農地環境整備事業 県営	面 積 (ha)						145.2			
	受益者数 (人)									
	筆 数 (筆)									
	権 利 関 係									
	備考 (関係戸数)						661			
計	面 積 (ha)						145.2			
	受益者数 (人)									
	筆 数 (筆)									
	権 利 関 係									
	備考 (関係戸数)						661			

第3節 水利状況

1. 用水状況

本地区では、用排兼用用水路のため、排水計画に示す。

2. 排水状況

(1) 排水系統

(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表－4)

事業名	施設名 項目		排水面積						計		排水慣行 (m³/s)	現況排水能力 (m³/s)	備考
			100ha 以上		100ha～20ha		20ha 未満						
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha			
農業用排水	自然	排水路	--	--	--	--	3	4.8	3	4.8	--	--	
		水門	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
	機械	排水機	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
		水門及び排水機	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
		排水路及び排水機	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
計			--	--	--	--	3	4.8	3	4.8	--	--	

(イ) 改修を要する施設の一覧表

(第5表-5)

事業名	項目		施設名又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年又は 更新年	改修を必要とする理由	備考
	施設名								
農業用排水	自然	排水路	3	4.8	石積み水路	L=925m	S45 年	老朽化による改修	
		水門							
	機械	排水機							
		水門及び排水機							
		排水路及び排水機							
計			3	4.8		L=925m			

(3) 排水に関する被害状況

該当なしにつき省略

3. 河川状況

該当なしにつき省略

第4節 道路現況

1. 道路概況

既設道路は幅員が不足し、また、一部農道整備がなされていないため通作に苦慮している。また、未舗装路線、舗装の劣化が認められる路線もあり、新鮮な地元産農作物の品質が低下する事態も生じている。これらの現状を解消し、営農経費の節減、農作物の品質向上を図るために必要な整備である。

2. 主要道路一覧表

(第6表)

No	路線名	管理区分別	整備延長	幅員	構造	計画との関連	備考
1	支線農道 1	南アルプス市	193	3.0	砂利舗装		
2	支線農道 2	南アルプス市	172	0	なし		
3	支線農道 3	南アルプス市	295	2.5～3.0	As 舗装		
4	支線農道 4	南アルプス市	0	2.0～2.5	砂利舗装または未舗装		廃止（整備しない）
5	支線農道 5	南アルプス市	192	2.0～2.5	As 舗装		
6	支線農道 6	南アルプス市	184	0	なし（一部 As 舗装）		
7	支線農道 7	南アルプス市	241	1.8～2.0	As 舗装		
8	支線農道 8	南アルプス市	200	0	なし		
9	支線農道 9	南アルプス市	134	1.0～1.5	未舗装		
10	支線農道 10	南アルプス市	185	0	なし		
11	支線農道 11	南アルプス市	234	0	なし		
12	支線農道 12	南アルプス市	109	2.0	砂利舗装		
13	支線農道 13	南アルプス市	130	2.0	As 舗装		
14	支線農道 14	南アルプス市	158	2.0	砂利舗装		
15	支線農道 15	南アルプス市	230	0	なし		

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(平成17年10月 国勢調査) (第7表-1)

項目	総数	A農業	B林業	C漁業	D鉱業	E建設業	F製造業	G電気・ガス・熱供給・水道業	H情報通信業	I運輸業	J卸売・小売業	K金融・保険業	L不動産業	M飲食店、宿泊業	N医療、福祉	O教育、学習支援業	P複合サービス業	Qサービス業（他に分類されないもの）	R公務（他に分類されないもの）	S分類不能の産業	備考
市町村名	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
南アルプス市	38,162	4,663	31	5	35	3,357	9,626	168	497	1,349	5,452	660	155	1,226	3,196	1,398	616	3,849	1,146	733	
計	38,162	4,663	31	5	35	3,357	9,626	168	497	1,349	5,452	660	155	1,226	3,196	1,398	616	3,849	1,146	733	
比率(%)	100.0	12.2	0.1	0.0	0.1	8.8	25.2	0.4	1.3	3.5	14.3	1.7	0.4	3.2	8.4	3.7	1.6	10.1	3.0	1.9	

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専兼業別農家数

(平成17年2月 農林業センサス) (第7表-2)

区分 市町村名	農家総戸 数	経営耕地広狭別農家数（戸）												
		販 売 農 家												経営耕地 のある自 給的農家
		0.3ha 未満	0.3～ 0.5ha未 満	0.5～ 1.0ha未 満	1.0～ 1.5ha未 満	1.5～ 2.0ha未 満	2.0～ 3.0ha未 満	3.0～ 5.0ha未 満	5.0～ 10.0ha未 満	10.0～ 20.0ha未 満	20.0～ 30.0ha未 満	30ha以上	販売農家計	
南アルプス市	4,401	118	944	1,497	362	81	14	3	1	-	-	-	3,020	1,381
計	4,401	118	944	1,497	362	81	14	3	1	0	0	0	3,020	1,381
比率(%)	100	3	21	34	8	2	0	0	0	0	0	0	69	31

区分 市町村名	一戸当たり平均農用地面積(ha)						耕地の分散状況		専兼業別農家数（販売農家）			備考
	田	畑	樹園地	小計	草地	計	1戸当 たり団地数	団地当 たり面積 (ha)	専業	兼業		
										第一種	第二種	
南アルプス市	0.12	0.04	0.51	0.67	0.00	0.67	－	－	710	389	1921	
計	0.12	0.04	0.51	0.67	0.00	0.67	－	－	710	389	1,921	
比率(%)	18	5	76	100	0	100			24	13	64	

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(平成17年2月 農林業センサス) (第7表-3)

市町村名	項目	動力農機具										主要家畜										備考
		乗用型トラクター		動力防除機		乗用型スピード スプレヤー		動力田植機		自脱型コンバイン		乳 用 牛		肉 用 牛		豚		採 卵 鶏		ブロイラー		
		数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (100羽)	戸数 (戸)	数量 (100羽)	戸数 (戸)	
南アルプス市		2,032	1,906	2,201	2,090	1,157	1,144	1,053	1,049	640	629	x	2	145	2	x	2	18	3	5,328	4	
計		2,032	1,906	2,201	2,090	1,157	1,144	1,053	1,049	640	629	x	2	145	2	x	2	18	3	5,328	4	
100戸当たり数量 (台、頭、100羽)		107		105		101		100		102		-		7,250		-		605		133,207		
利用戸数割合(%)		63		69		38		35		21		-		-		-		-		-		

注：動力農機具 農林業センサスより販売農家のみ
 主要家畜 販売目的の家畜を飼養している農家数と飼養頭羽数
 100戸当たり数量 数量／戸数
 利用戸数割合 戸数／販売農家総数

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名		南アルプス市			計		平均	作付率 (%)	備考
総耕地面積(ha)		2,720			2,720				
総本地面積(ha)		2,693							
作物名	区分	作付面積 (ha)	収穫量 t	単位面積当 り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積当 り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積当 り収量 (kg/10a)	
田	水稻	449	2290	509			449	509	19
畑	春植ばれいしょ	16	10	1,540			16	1,540	1
	きゅうり	56	2,230	3,970			56	3,970	2
	トマト	18	935	5,190			18	5,190	1
	スイートコーン	15	180	1,200			15	1,200	1
	その他野菜	94					94		4
樹園地	ぶどう	385	5,190	1,350			385	1,350	16
	もも	419	5,950	1,420			419	1,420	17
	すもも	362	3,030	836			362	836	15
	おうとう	218	904	415			218	415	9
	うめ	150	770	513			150	513	6
	かき	187	1,890	1,010			187	1,010	8
	その他果樹	39					39		2
計		2,408					2,408		100
市町村別延べ 作付率(%)		88.5					88.5		

注：総耕地面積は、農林水産省「平成19年産作物統計調査」による
 総本地面積は、総耕地面積×本地率99%として推計
 作付面積及び単収は、「平成19年産作物統計」「平成18年産野菜生産出荷統計」「平成18年産果樹生産出荷統計」による

５．農業の動向

南アルプス市

(第7表－5)

項目 区分	農 家 (戸、人)						土 地 (耕地面積・ha)						主要作物 (作物面積・ha)					
		A(H12)2000	B(H17)2005		A=A/A	B=B/A		A(H12)2000	B(H17)2005		A	B		A(H12)2000	B(H17)2005		A	B
変化の状況 (A年を100とする指数)	総 農 家 数	3,650	3,020		100	83	耕 地	2,394	2,014		100	84	米	188	148		100	79
	専 業 農 家 数	662	710		100	107	田	459	367		100	80	野 菜 類	18	42		100	235
	第一種兼業農家数	755	389		100	52	普 通 畑	157	109		100	70	ぶ ど う	395	305		100	77
	第二種兼業農家数	2,233	1,921		100	86	樹 園 地	1,778	1,537		100	86	も も	437	397		100	91
	農業従事者数	15,806	11,973		100	76							す も も	363	317		100	87
変化の理由	H12, 17:販売農家 農業従事者数は、基幹的農業従事者数 激しい農業情勢と高齢化の進行に伴い、減少している。 (資料:農林業センサス)						H12, 17:販売農家 農家数の減少等に伴い耕地面積も減少している。 (資料:農林業センサス)						H12, 17:販売農家 農家数の減少に伴い、作物面積も減少しているが、野菜類の 増加が見られる。 (資料:農林業センサス)					

(第7表－5)

項目 区分	大家畜 (頭、100羽)						動力農機具 (台)						地域指定等	備考
		A(H12)2000	B(H17)2005		A	B		A(H12)2000	B(H17)2005		A	B		
変化の状況 (A年を100とする指数)	乳 用 牛	x	x		100	x	動力耕耘機、トラクター	4,817	2,032		100	42		A:H12年(2000) B:H17年(2005)
	肉 用 牛	x	x		100	x	動力防除機	2,400	2,201		100	92		
	豚	2,244	x		100	x	乗用ステートスプレーヤー	1,153	1,157		100	100		
	採 卵 鶏	225	18		100	8	動力田植機	1,218	1,053		100	86		
	フロイラー	7,532	5,328		100	71	自脱型コンバイン	354	640		100	181		
変化の理由	H12, 17:販売農家 統計方法が年によって異なり、秘匿値もあることから、比較は難しい。 (資料:農林業センサス)						H12, 17:販売農家 (H12八田村, 白根町, 芦安村, 若草町, 櫛形町, 甲西町の合計) 農家数の減少に伴い、所有機械の数も減少しているが、一部の機械については増加傾向にある。 (資料:農林業センサス)							

第6節 地域環境の概況

南アルプス市は、県都である甲府市の西側約 10km に位置し、釜無川右岸に広がる御勅使川の扇状地とその上流部の南アルプス山系から構成されている。この山系は長野県に接し、この山間部にある芦安地区は、南アルプス国立公園に属している。一方、平坦地は、釜無川右岸の扇状地に広がり、市街地は主として国道 52 号沿いに形成されている。気象条件は、甲府盆地特有の内陸性気候であり寒暖差が大きく、地区西部の山間部では、年間平均降水量は 1,300mm 程度である。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

南アルプス西部地区は、3,000m 級の山々に囲まれ特徴的な果樹園・棚田を有し、「競争力と持続力を持つ交流6次化モデル構想」構築特区において里山エリアとして位置づけられている。この豊かな自然と地域資源を有効に活用しスモモの生産量が日本一※となっており、年間出荷量は2千トン※を超える。生産品種は「貴陽」、「ソルダム」、「サマーエンジェル」、「サマービュート」など13種類に及び、特に南アルプス市のオリジナル品種である貴陽は1個平均200グラムもある大玉種で、2012年7月には「重さが世界一のスモモ」としてギネス世界記録に認定されている。

本地区内では果樹の栽培が盛んであり、多くの篤農家が「果樹王国やまなし」の一翼を担っている。また、本地区の中央に位置する「ほたるみ館」、「まちの駅くしがた」には農産物直売施設があり、新鮮な農産物を求める地域住民・都市住民に対して、これらを活用した少量多品目販売を目指した流通体制が確立しつつある。特に、ほたるみ館では地元農産物の加工・販売を行い、新商品の開発も積極的に行い商品化に向けて努力している。

本地区の農地は山際の果樹園、美しい棚田をはじめとする優良な農地であったが、鳥獣害被害や農作物の価格高騰の影響、また営農従事者の高齢化や担い手不足により耕作放棄地として荒廃の一途をたどっており、現況の耕作地もその影響を受け営農に困難をきたしている。そのため、これらの現状を解消し、元来の優良農地を復活させ担い手が育つ高収益な農業を実現するため、区画整理による担い手への農地の利用集積と、農業用排水路整備、道路整備、鳥獣侵入防止施設整備により計画的・安定的な農業生産を行なうための整備が急務である。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名	現況地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	樹園地 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)
用排水路	南アルプス市	30.55 (2.81)	4.27 (0.36)	6.00 (0.97)	0.0	0.0	0.09 (0.16)	40.91 (4.3)
排水路	〃	1.17	0.89	2.32	0.0	0.0	0.0	4.38
農道	〃	14.25 (2.81)	2.8 (0.36)	8.7 (0.97)	0.0	0.0	0.3 (0.16)	25.2 (4.3)
区画整理	〃	0.0	2.2	16.6	0.0	0.0	1.6	19.8
鳥獣害防止柵	〃	0.0	14.3 (9.1)	47.0 (28.8)	0.0	0.0	0.0	61.3 (37.9)
保全管理区域	〃	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	3.0
計		41.1 (3.8)	24.4 (9.1)	76.7 (32.3)	0.0	3.0	2.0	147.2 (45.2)

※1 () 面積は重複受益

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

南アルプス市において、旧6町村内で現に成立している優良な経営事例を踏まえつつ、農業経営の発展を目指し、農業を主業とする農業者が地域における他産業従事者並の生涯所得に相当する水準を実現できるものとし、これらの経営体が南アルプス市農業生産の相当部分を担う農業構造を確立していくことを目標とする。

営農類型	目標規模	作目構成
果樹	1.3 ha	ぶどう(1.3ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	1.2 ha	おうとう(0.5ha)+もも(0.6ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	1.3 ha	おうとう(0.3ha)+ぶどう(0.9ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	1.2 ha	おうとう(0.3ha)+すもも(0.6ha)+かき(0.2ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	1.3 ha	おうとう(0.3ha)+もも(0.4ha)+ぶどう(0.5ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	1.2 ha	おうとう(0.3ha)+すもも(0.6ha)+もも(0.2ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	1.3 ha	もも(0.4ha)+すもも(0.6ha)+かき(0.2ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	1.4 ha	すもも(0.6ha)+ぶどう(0.3ha)+もも(0.4ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	1.3 ha	もも(0.6ha)+すもも(0.6ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	1.3 ha	もも(0.4ha)+ぶどう(0.8ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	1.3 ha	ぶどう(1.0ha)+なし(0.2ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹+野菜+稲作	1.0 ha	ぶどう(0.4ha)+トマト(0.2ha)+水稲(0.4ha)
野菜	0.5 ha	トマト(0.5ha)
野菜+稲作	1.0 ha	トマト(0.25ha)+きゅうり(0.25ha)+水稲(0.5ha)
花卉	0.4 ha	シクラメン(0.4ha)+裏作ニューギニアインパチェンス
畜産	-- ha	種雌140頭+種雄10頭+育成雌50頭+育成雄5頭+肥育豚1200頭
畜産	6.0 ha	経産牛30頭+育成牛15頭
畜産	-- ha	肉用牛150頭
果樹	0.6 ha	もも(0.2ha)+すもも(0.3ha)+ 苗ほ場(0.1ha)
果樹	0.5 ha	すもも(0.3ha)+ぶどう(0.2ha)
山菜	0.4 ha	シイタケ(0.05ha)+わらび(0.2ha)+こごみ等(0.15ha)
稲作+野菜	5.2 ha	水稲(作業受委託)(10.0ha)+水稲(自作)(5.0ha)+トマト(0.2ha)
果樹+野菜	7.3 ha	おうとう(0.5ha)+もも(3.5ha)+ぶどう(1.8ha)+ぶどう(醸造用)(1.0ha)+イチゴ(観光)(0.2ha)+ 苗ほ場(0.3ha)
花卉	0.6 ha	シクラメン(0.6ha)+裏作ニューギニアインパチェンス

出典「南アルプス農村振興地域整備計画書」平成19年7月(P.33)

2. 土地利用区分

(第9表－1)

事業名	現況地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	樹園地 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)
用 排 水 路	南アルプス市	30.55	4.27	6.00	0.0	0.0	0.9	40.91
排 水 路	〃	1.17	0.89	2.32	0.0	0.0	0.0	4.38
農 道	〃	14.25 (5.49)	12.37 (9.71)	8.70 (3.16)	0.0	0.0	0.44 (0.16)	35.76 (18.52)
区 画 整 理	〃	0.0	2.2	16.00	0.0	0.0	1.6	19.8
鳥 獣 害 防 止 柵	〃	0.0	14.27	50.63	0.0	0.0	0.0	64.90
保 全 管 理 区 域	〃	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	3.1
計		45.97 (5.49)	34.00 (9.71)	83.65 (3.16)	0.0	3.1	2.94 (0.16)	168.85 (18.52)

※1 () 面積は重複受益

3. 作付方式

(第9表－2)

事業名	項目	経営 類型	土地 利用 区分	1年目												2年目											
				1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月
農地環境整備事業	現況	野菜	畑			○		△		×	×																
		果樹	樹園地			○	△			×																	
	計画	野菜	畑			○		△		×	×																
		果樹	樹園地			○	△			×																	

凡例

○：播種または発芽、△：定植、×：収穫

4. 生産計画

(第9表-3)

事業名	項目 土地利用区分		作物名	作 付 面 積 (ha)			作 付 率 (%)		単位面積当たり収量 (kg/10a)			生 産 量 (t)			同左生産量増減の内訳 (t)		備 考
				現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積 当たり 収量増加	
農地環境整備事業	普通畑	通年	きゅうり	0.3	0.3	0.0	40.0	40.0	4,144	4,144	--					--	
			ト マ ト	0.4	0.3	-0.1	40.0	40.0	6,017	6,017	--					--	
			はくさい	0.3	0.3	0.0	30.0	30.0	3,322	3,322	--					--	
合 計				1.0	0.9	-0.1	100.0	100.0									

5. 労働改善計画

該当なしにつき省略

6. 級地別土地利用区分

該当なしにつき省略

7. 土地配分計画

該当なしにつき省略

第3節 用水計画

本地区では、用排兼用用水路のため、排水計画に示す。

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

降雨強度式 $\frac{336.49}{\sqrt{t}-0.081}$ (1/10 確率)「山梨県各地域の確率降雨強度式(甲府)」による。

2. 計画排水方式

合理式 $Q = \frac{1}{3.6} \cdot re \cdot A$

ここに、 Q :ピーク流出量(m³/s)

re :洪水到達時間内の平均降雨強度(mm/hr)

f :ピーク流出係数

r :降雨強度

A :流域面積(km²)

3. 計画排水系統

別紙(計画平面図)を参照

4. 計画排水量

水路名	区分	延長 (m)	受益面積 (ha)	単位水量		計画水量		支配断面判定
				用水	排水	用水	排水	
				(m ³ /s/ha)	(m ³ /s/ha)	(m ³ /s/ha)	(m ³ /s/ha)	
支線用排水路－1	用排水	86	4.14	0.0154	単位排水量算定より	0.064	0.765	排水
支線用排水路－2	用排水	172	0.69	0.0154	〃	0.011	0.065	排水
支線用排水路－3	用排水	144	3.03	0.0154	〃	0.047	0.035	排水
支線用排水路－4	用排水	729	15.80	0.0154	〃	0.243	0.647	排水
支線用排水路－5 廃止路線	用排水	0	1.54	0.0154	〃	0.024	0.036	用水
支線用排水路－6	用排水	127	0.60	0.0154	〃	0.009	0.021	排水
支線用排水路－7	用排水	192	0.69	0.0154	〃	0.011	0.064	排水
支線用排水路－8	用排水	497	6.48	0.0154	〃	0.100	0.435	排水
支線用排水路－9	用排水	261	0.63	0.0154	〃	0.010	0.054	排水
支線用排水路－10	用排水	250	1.36	0.0154	〃	0.021	0.106	排水
支線用排水路－11	用排水	191	1.41	0.0154	〃	0.022	0.121	排水
支線用排水路－12	用排水	447	1.74	0.0154	〃	0.027	0.083	排水
支線用排水路－13	用排水	226	1.14	0.0154	〃	0.018	0.099	排水
支線用排水路－14	用排水	119	0.76	0.0154	〃	0.012	0.066	排水
支線用排水路－15	用排水	170	1.02	0.0154	〃	0.016	0.096	排水
支線用排水路－16	用排水	105	0.90	0.0154	〃	0.014	0.091	排水
支線用排水路－17	用排水	145	0.52	0.0154	〃	0.008	0.045	排水
支線排水路－1	排水	122	－	－	－	－	0.100	排水
支線排水路－2	排水	408	－	－	－	－	0.217	排水
支線排水路－3	排水	383	－	－	－	－	0.097	排水

5. 排水対策

(1) 排水水門

該当ないので記載を省略

(2) 排水機

該当ないので記載を省略

(3) 排水路

路線名	U字溝規格	備 考
支線用排水路－1	U - 300	
支線用排水路－2	U - 600	土留め用壁と水路壁を兼用するためU-600を採用している
支線用排水路－3	U - 300	
支線用排水路－4	現況利用	水路底版の打換えを行う
支線用排水路－5	U - 300	
支線用排水路－6	U - 300	
支線用排水路－7	U - 300	
支線用排水路－8	U - 300	
支線用排水路－9	U - 300	
支線用排水路－10	U - 360	
支線用排水路－11	落蓋 400型	
支線用排水路－12	U - 300	
支線用排水路－13	U - 360	
支線用排水路－14	U - 300	
支線用排水路－15	U - 360	
支線用排水路－16	U - 360	
支線用排水路－17	U - 300	
支線排水路－1	落蓋 400型	
支線排水路－2	落蓋 500型	
支線排水路－3	U - 360	

(4) その他

該当ないので記載を省略

6. 湛水検討

該当ないので記載を省略

第5節 道路計画

1. 道 路

(1) 現況道路

幅員が不足しているため、計画幅員 B=4.0m を確保し営農経費の節減を図る。未舗装道路であるため、舗装により農業生産性の向上を図る。

(2) 計画道路

道路幅員は計画交通機種によって決定する。

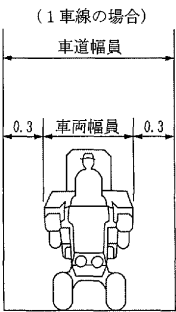
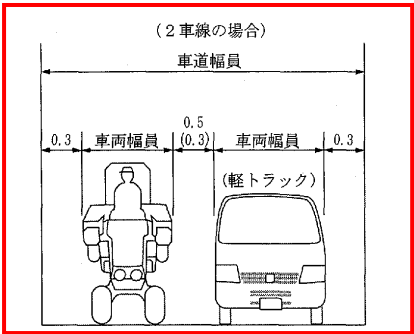
支線農道：ほ場作業のための往来、肥料、農薬等の営農資材の搬入、収穫物のほ場からの搬出を考慮し、小型トラックと乗用トラクタのすれ違いが可能な2車線の設定とする。

【幅員の決定】

下記に示す各幅員を合計し、端数は0.5m単位で切り上げ道路幅員を決定する。

幹線・支線農道：小型トラック幅員 1.7m及び乗用トラクタ(22.1kw 未満)幅員 1.3m、車両外側の余裕(0.30×2=0.60m)、すれ違い幅 0.3mとする。

支線農道幅員=1.7+1.3+0.30×2+0.3=3.9m→4.0m



土地改良設計基準・計画「農道」H17.3 P186

表-3.4.2 農業機械等の幅員と高さ

名 称	幅員(m)	高さ(m)	名 称	幅員(m)	高さ(m)
乗用車	1.7	2.0	ディスクハロー (マウント)	2.3	
大型トラック (58.8kN以上)	2.5	3.8	ライムソフ (700L級) (マウント)	3.5	
小型トラック (19.6kN)	1.7	2.8	ロールペーラ	1.7	2.4
軽自動車 (軽トラック)	1.5	2.0	ファームワゴン (自走式、牽引式)	2.0	2.5
耕うん機 (3.7kW未満)	0.6		スピードスプレーヤ (400L)	0.9~1.1	2.0
〃 (3.7kW以上)	0.8		〃 (500~1000L)	1.5	2.0
乗用トラクタ (22.1kW未満)	1.3	2.0	コーンハーベスタ (自走式、牽引式)	2.4	3.7
〃 (22.1kW級)	1.7	2.0	フォーレージハーベスタ (自走式、牽引式)	2.4~3.1	3.6
〃 (36.8kWを超える)	2.3	2.8	ポテトハーベスタ (牽引式)	3.0	3.0
コンバイン (2条)	1.6	2.0	〃 (自走式)	2.5	3.0
〃 (3、4条)	1.7	2.0	田植機 (4条)	1.6	1.5
〃 (5条)	2.0	2.7	〃 (5条)	1.9	1.5
〃 (6条)	2.3	2.7	〃 (6条)	2.2	1.6
〃 (58.8kW級)	2.3	2.0	〃 (8条)	2.2	1.7
〃 (88.3kW級)	3.8	2.9	水田用栽培管理ビークル	2.0	1.8
自転車	1.0		汎用いも類収穫機	2.2	2.8
トレーラ (牽引式)	1.9	1.3	風筒式防除機 (歩行型)	1.0	
ドリルシーダ (マウント)	3.0		果樹用管理ビークル	0.9	
鎮圧ローラ (牽引式)	2.4		小型クローラ運搬車	0.6	1.0
マニュアルスプレッダ (自走式、牽引式)	2.0	2.8			
プラウ	2.5				

注) 農業機械等の幅員が2.5mを超える機種により車道の幅員を決定する場合は、車両制限令により幅2.5mを超える車両が規制を受けることとなるため、一般交通の用に供する(道路交通法の適用を受ける)農道においては、幅員の決定根拠として使用しないものとする。

【路肩の決定】

支線農道の車道幅員は前項より4.0mと決定したため、必要となる路肩幅は下表の値よりB=0.25mとする。

車道幅員	歩道等を設けない場合						歩道等を設ける場合					
	一般部		橋梁部		トンネル部		一般部		橋梁部		トンネル部	
	標準	特例	標準	特例	標準	特例	標準	特例	標準	特例	標準	特例
6.5	1.0	0.5	0.75	0.5	0.5	—	0.5	0	0.5	0.25	0.5	0.25
6.0	0.75	0.5	0.75	0.5	0.5	—	0.5	0	0.5	0.25	0.5	0.25
5.5	0.75	0.5	0.75	0.5	0.5	—	0.5	0	0.5	0.25	0.5	0.25
5.0 以下	0.5	0.25	0.5	0.25	0.5	0.25	0.5	0	0.5	0.25	0.5	0.25

注1) 特例とは、地形の状況等の理由から標準と同一とすることによって著しく不経済となるなど特別の理由によりやむを得ない場合をいう。

2) 歩道等とは、歩道、自転車道及び自転車歩行者道のことをいう。

3) 橋梁部とは、延長50m以上の橋梁をいう。

4) 特例値の0.25mは、道路構造令の適用を受ける道路にあつては0.5mに読み替えて適用すること。

5) 歩道等を設ける場合の一般部の特例値0mについては、区画線の設置を考慮し0.25mを確保することが望ましい。

土地改良設計基準・計画「農道」H17.3 P187

第6節 農用地造成計画

該当なしにつき省略

第7節 洪水調整計画

該当なしにつき省略

第8節 干拓計画

該当なしにつき省略

第9節 農用地整備計画

1. 区画整理

本地区は、エリアの区画が狭く、また形状も区画により様々であるため、農業機械の効果的な利用が困難な状況である。エリア内の耕作道が整備されていない区画についての資材等運搬は人肩で行っている。

また、未舗装の道路に隣接している区画では、荷痛みなどが発生している。

(1) 区画の形状

工区名	長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備 考
中野 1 工区	100×30	5.5	5.5	28	－	
中野 2 工区	100×30	14.3	14.3	72	－	
計			19.8			

(2) 表土扱い

面 積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土 量 (m ³)	備 考
19.8	要：表土扱いが不要とされる場合以外は原則として表土扱いを行う。 (表土扱いとしない場合) ・作土の肥沃度が低いために作土と下層土を混合することによりかえって地力増進になる場合。 ・切土、盛土深が 5cm 以内の平坦な地区の場合。 本地区は上記表土扱いを必要としない場合に該当しない。			

(3) 末端道水路位置図

2. 暗渠排水

該当なしにつき省略

3. 客土

該当なしにつき省略

4. 農地保全

該当なしにつき省略

第 10 節 老朽ため池改修計画

該当なしにつき省略

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

本地区では、用排兼用用水路のため、排水計画に示す。

第2節 排水施設

1. 排水水門

該当ないので記載を省略

2. 排水機

該当ないので記載を省略

3. 排水路

(第18表-3)

項目 水路名	受益面積 (ha)		排水量 (m3/s)	延長(m)			構造	勾配	主要 構造物	備 考
	事 業 名			開きよ	その他	計				
	農業用排水	計								
支線用排水路-1	4.14	4.14	0.765	86		86	二次製品		U-300	
支線用排水路-2	0.69	0.69	0.065	172		172	二次製品		U-600	延長減
支線用排水路-3	3.03	3.03	0.035	144		144	二次製品		U-300	
支線用排水路-4	15.80	15.80	0.647	729		729	現場打ち		U-1000	延長減
支線用排水路-5										廃止
支線用排水路-6	0.59	0.60	0.024	127		127	二次製品		U-300	延長減
支線用排水路-7	0.69	0.69	0.071	192		192	二次製品		U-300	
支線用排水路-8	6.45	6.48	0.200	497		497	二次製品		U-300	延長減
支線用排水路-9	0.62	0.63	0.054	261		261	二次製品		U-300	
支線用排水路-10	1.36	1.36	0.106	250		250	二次製品		U-450	延長減
支線用排水路-11	1.41	1.41	0.121	191		191	二次製品		落蓋 400 型	延長減
支線用排水路-12	1.72	1.74	0.083	447		447	二次製品		U-300	延長減
支線用排水路-13	1.13	1.14	0.099	226		226	二次製品		U-360	
支線用排水路-14	0.75	0.76	0.066	119		119	二次製品		U-300	延長減
支線用排水路-15	1.02	1.02	0.096	170		170	二次製品		U-300	
支線用排水路-16	0.90	0.90	0.091	105		105	二次製品		U-300	延長増
支線用排水路-17	0.52	0.52	0.035	145		145	二次製品		U-300	新規
支線排水路-1	0.95	0.95	0.100	122		122	二次製品		落蓋 400 型	延長減
支線排水路-2	2.56	2.56	0.217	408		408	二次製品		落蓋 500 型	
支線排水路-3	0.87	0.87	0.097	383		383	二次製品		U-360	延長増

4. その他排水施設

該当ないので記載を省略

第3節 道路及び索道

1. 道 路

(1) 道路の総括表

(第19表-1)

路線名	有効幅員 (m)	延長 (m)	構造 種類	舗装 厚さ (cm)	最急 勾配 (%)	同左の延長 (m)	最小曲線 半径 (m)	備考
支線農道1号	4.0	185	A s	4	-	-	-	延長増
支線農道2号	4.0	177	A s	4	-	-	-	延長減
支線農道3号	4.0	295	A s	4	-	-	-	
支線農道4号	4.0	0	A s	4	-	-	-	廃止
支線農道5号	4.0	192	A s	4	-	-	-	
支線農道6号	4.0	182	A s	4	-	-	-	延長増
支線農道7号	4.0	383	A s	4	-	-	-	延長減
支線農道8号	4.0	200	A s	4	-	-	-	
支線農道9号	4.0	134	A s	4	-	-	-	
支線農道10号	4.0	243	A s	4	-	-	-	延長減
支線農道11号	4.0	234	A s	4	-	-	-	
支線農道12号	4.0	120	A s	4	-	-	-	延長減
支線農道13号	4.0	130	A s	4	-	-	-	
支線農道14号	4.0	180	A s	4	-	-	-	延長減
支線農道15号	5.0	230	A s	4	-	-	-	追加

(2) 道路主要構造物

該当なしにつき省略

2. 索 道

該当なしにつき省略

第4節 農用地造成

該当なしにつき省略

第5節 洪水調整施設

該当なしにつき省略

第6節 干拓施設

該当なしにつき省略

第7節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理

傾斜9%（5°）～27%（15°）未満の既存樹園地で、利用する機械及び施設により二つの枝タイプに分けて適用する。

<留意事項>

- ① 各所有区に接するように支線農道を新設または改良する。
- ② 桑園及び茶園においては、収穫物の運搬のために耕区長辺は100m程度とし、支線農道の間隔が100mを超える場合には、中央に2m程度の園内道を設ける。
- ③ 防除、摘果、収穫等の作業を行うためのスピードスプレーヤー、高所作業車、運搬車等が自由に所有区に出入りできるように幅2m程度の園内道を一定間隔に整備することが必要である。また、多目的スプリンクラーによる防除及びかん水を行うことを基本としている場合、小型のクローラ型運搬車等で資材や収穫量の搬出入を行うことができるように適切な間隔で幅1m程度の作業道を整備することが必要である。
- ④ 緩傾斜既成園では、所有区の境に石垣等で省落差を保護しているところが多いが、ほ場整備に当ってはこれを取り除き、機械利用効率を高めるとともに、普通畑の考え方に準じてほ区内の排水系統を整備する必要がある。
- ⑤ スプリンクラー利用で防除及びかん水を行う場合は、防除組合及びかん水組合を結成して共同作業で行う。

（第23表－1）

工 区 名	面 積 (ha)	整 地 工		表 土 扱 い		備 考
		標準区画	土 量 (m³)	面 積 (ha)	土 量 (m³)	
中野 1 工区	5.5	30a		--	--	面積減
中野 2 工区	14.3	30a		--	--	面積増
計	19.8					

(2) 末端用水路等

該当なしにつき省略

2. 暗渠排水

該当なしにつき省略

3. 客土

該当なしにつき省略

4. 除礫

該当なしにつき省略

5. 農地保全

該当なしにつき省略

第 8 節 老朽ため池改修施設

該当なしにつき省略

第6章 付帯工事計画

該当なしにつき省略

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

工期 着手 平成25年度

完了 令和9年度

第8章 環境との調和への配慮

工事の実施にあたっては、周辺景観との調和に配慮し、区画境界に現地発生材を用いた石積みを採用するなど、美しい農村景観の保全を図る。

工事に伴う濁水が下流水路に流出しないよう、仮廻し水路の施工や排水ポンプの設置により汚濁水を影響のない場所へ迂回させて排水する、沈殿槽を設けるといった対策を行う。

工事車両及び工事機械は、低騒音・低振動型で排ガス対策がされた機械を使用し、周辺へ影響を与えないようにする。

なお、施工時に保護すべき動植物が発見された場合は、一時的な捕獲・移動や保全区域への移植など、適切な処置を講ずる。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

本地区の換地計画は、農地の改良、開発、保全、及び農地の集団化を目的とするとともに、用途、地積、等位その他の自然条件を総合的に勘案し、従前の土地に照応するように定めるものとする。

第2節 換地区の設定

1. 換地区の名称、所在、面積

(第25表-1)

換地区名	換地工区の所在	面積(ha)
中野1工区	南アルプス市中野地内	5.5
中野2工区	南アルプス市中野地内	14.3
計		19.8

2. 換地区を設定する理由

本事業における区画整理においては、地域のまとまりを考慮し、換地区を設定する。

第3節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の面積の基準

(第25表-2)

換地区名	地積の基準
中野1工区	換地交付の基準とする従前の土地は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、左記の日から1ヶ月内に測量士、測量士補、または土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申出があった場合には、その申出のあった地積とする。
中野2工区	同上

2. 用途別予定地積

(単位：ha) (第25表-3)

用 途 換地区名 前後		非農用地区域外に換地する土地												非農用地区域に換地する土地										機能交換に係る土地				一 般 国 有 地 等	総 合 計	
		田	畑	山 林 ・ 原 野 他	そ の 他	通常事業施行地 域に含める土地 (令第1条の 9()書き)			計	本事業によって 生ずる土地改良 施設用地			創 設 農 用 地 計	特定用途用地			異 種 目 換 地	創設非農用地					合 計	国	県	市 町 村 等	合 計			
						土 地 改 良 施 設	そ の 他	小 計		改 良 区	そ の 他	小 計		宅 地	そ の 他	計		化 農 業 施 設 合 理 設	上 必 要 な 施 設 合 理 設	生 活 上 ・ 経 営 施 設 合 理 設	公 用 ・ 公 共 用 地	宅 地 等								計
中野 1工区	従前の土地		5.5	--	--				5.5						5.5															5.5
	換 地		5.5	--	--				5.5						5.5															5.5
中野 2工区	従前の土地		14.3	--	--				14.3						14.3															14.3
	換 地		14.3	--	--				14.3						14.3															14.3
合 計	従前の土地		19.8						19.8						19.8															19.8
	換 地		19.8						19.8						19.8															19.8

3. 農用地集団化の方針

(第25表-4)

区 分 換地区分	地帯別、グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	1戸当たりの目標団地数	区画畦畔の取扱い
中野1工区	地目別集団化	従前地の密集した位置を中心に換地する。また密集した位置がいくつかに分かれているときは、2ヶ所を限度として密集地を選んで換地する。 また、位置の決定に当たっては、担い手農家の支援を考慮する。	1	区画界については配分面積に応じて移動する。
中野2工区	同 上	同 上	同 上	同 上

4. 非農用地の換地方法

該当なしにつき省略

第4節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法

地区の評価委員が、従前・換地ともその農業条件の最も良い土地を標準地として選定し、その土地価格1点1m²当たりの単価を定め、営農上重要と認められる条件項目について段階的な増減点を設定し、各土地を採点する標準地比準評価方式による。

2. 清算の方法

土地改良事業による利益（増加額）を従前の土地の地積に比例配分し、その配分額を加えた額を換地交付基準額として、換地価格との清算を行う比例地積清算方式による。

第 5 節 換地計画樹立の年度計画

(第 2 5 表－ 6)

区 分 換地区名	一時利用地の指定状況	換地計画の認可決定予定 年度	換地処分予定年度	備 考
中野 1 工区	完了	令和 8 年度	令和 8 年度	平成 27 年度工事着手予定 令和 9 年度工事完了予定
中野 2 工区	完了	令和 8 年度	令和 8 年度	平成 28 年度工事着手予定 令和 8 年度工事完了予定

第 6 節 換地処分の時期に関する特則

本地区において、換地区内の区画形状の変更に係る工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第 89 条の 2 第 10 項で準用する同法第 54 条第 2 項本文の規定にかかわらず、換地処分を行うことができるものとする。

第 10 章 事業費の総額及び内訳

(単位：百万円)

区 分 \ 事 業 名		農業用排水	排水路	農道	区画整理	鳥獣害防止 柵	測試他	計	備 考
主 要 工 事		453	70	545	752	169	511	2,500	R7 年度単価
附 帯 工 事		--		--	--	--		--	
計		453	70	545	752	169	511	2,500	
関連事業 (参考)	中野活性化農道							168	
	計								

第 11 章 効 用

1. 投資効率および所得償還率総括

(第 27 表)

事業名	項 目 区 分	年総効果（便益）額 （百万円）	現況年総農業所得額 （百万円）	年総増加農業所得額 （百万円）	備 考
農地環境整備事業	食料の安定供給の確保に関する効果	269		241	作物生産効果、品質向上効果 営農経費節減効果 維持管理費節減効果、走行経費節減効果
	農業の持続的発展に関する効果	--		--	
	農村の振興に関する効果	1.1		--	一般交通費節減効果
	多面的機能の発揮に関する効果	--		--	
	その他	13		--	国産農産物安定供給効果
	計	283		241	R7 年度単価

第 12 章 関連する事業

該当なしにつき省略

第 13 章 現況・計画図面（別添）